

令和3年度 さいたま市立岩槻小学校 自己評価書

校長 中島 悟



1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

学校の教育目標「豊かな心を持ち、自己の能力（よさ）を最大限に発揮できる、心身共に健全な子どもを育成する。」

- (1) 学習指導要領、「さいたま市の学校教育」及び本校の実態を踏まえた教育課程の工夫と実践により、できた喜び・学ぶ楽しさを味わい、自ら学びに向かう児童の育成に努める。
－「児童生徒の学力・学習状況」「教員の授業にかかわる評価」
- (2) 児童一人ひとりのよさに気付かせ伸ばす、学年・学級経営の充実を図る。
－「児童生徒の状況」「学校における働き方改革の視点」
- (3) 家庭・地域・関係機関と連携し、地域の教育力を活用する。地域の伝統文化を実感し、郷土を愛する心情を育む教育を推進する。－「学校と保護者、地域住民との連携の状況」
- (4) 健康でたくましい身体と豊かな心を育む教育を推進する。児童の安全・安心とそのため
の体制整備を推進する。－「各教科の授業の状況」「安全管理の状況」「安全教育の状況」
- (5) 学校いじめ防止基本方針を教職員、児童生徒、保護者、地域の方々へ周知し、いじめゼロ
をめざし組織的に取り組む。－「いじめの防止等の状況」

2 評価結果について 成果（○）と課題（▲）

- (1) ○「アクティブ・ラーニング型授業」を推進し「個別最適な学び」と「協働的な学び」を
一体的に連動させる授業改善を行う校内研究を行う等、本校の実態を踏まえた教育課
程の実践を通して、児童の学習意欲が高まった。
(児童評価「進んで学習」肯定85%、保護者評価「意欲を高める工夫」肯定90%)
▲基礎学力の定着に個人差がみられる。ICTを効果的に活用し、個別最適化された指導
を工夫する必要がある。
- (2) ○会議時間や夏季休業中の出勤日の縮減、ノー残業デーの確実な実施等、教員の心のゆと
りや時間を生み出す取組により、児童と落ち着いて向き合う時間の確保ができた。
(児童評価「学校は楽しい」肯定86%、教員評価「働き方の工夫」肯定100%)
▲特別な配慮を要する児童のより具体的な情報共有に基づく、より組織的な対応をして
いきたい。
- (3) ○感染症対策を徹底したうえで、運動会や修学旅行等を実施することができた。また、児
童の図工の作品を展示会に出品するなど、地域行事への参加を行うことができた。
(保護者評価「行事の工夫」肯定86%、「開かれた学校づくり」肯定92%)
▲コミュニティスクールを活用し、より一層、地域の教育力を活用した学習が進められる
ように工夫していく必要がある。
- (4) ○保護者や地域の方々の協力を得て、安全な登下校ができるような組織づくりに努めるこ
とができた。交通安全教室、避難訓練等を実施し、児童の安全への意識の向上を図ること
ができた。また、養護教諭や栄養教諭、さわやか相談員等と連携し、児童が自分の成
長を見つめ、健康への意識向上につなげる授業実践に取り組むことができた。
(児童評価「交通ルールの順守」肯定97%、保護者評価「健康への意識」肯定90%)
▲日々変化する感染状況をしっかり見極め、油断することなく教育活動を実施してい
きたい。
- (5) ○生徒指導委員会を月に1回実施し、きめ細かな対応ができた。また、緊急時には特別に
校内委員会やケース会議を開催し、速やかに組織的な対応を行った。
(児童評価「いじめへの取組」肯定97%、保護者評価「いじめへの取組」肯定92%)
▲コロナ禍の中、様々なストレスを抱えた児童一人ひとりの内面を見極め、個に応じた、
適切な相談体制の構築を、今後も推進していく必要がある。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- (1) 「深い学び」を目指した授業改善を行い、児童の学力向上を目指す。
- (2) コミュニティスクールを生かして、地域の教育力を効果的に活用できるようにする。
- (3) 関係機関等とのネットワークをさらに構築し、児童一人ひとりの課題に応じた対応ができ
る体制をより一層充実する。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。